

デイリージーザスニュース #023

イエスの宣教準備の30年

イエスはエルサレムの神殿で父と交わる ルカ2.41-52)

41 イエスの両親は毎年、過越祭のためにエルサレムへ上って行った。 42 イエスが十二歳になったとき、両親は慣例に従って祭りに上って行った。

43 祭りが終わって、両親が家に帰ったとき、少年イエスはエルサレムに残っていたが、両親はそれに気づかなかった。 44 彼らは、少年イエスが旅の仲間の中にいると思い、一日旅を続け、それから親族や友人の間を捜し回った。 45 しかし、少年イエスが見つからなかつたので、捜し続けてエルサレムに戻った。

46 三日後、彼らはイエスが神殿の境内で教師たちの真ん中に座り、彼らの話を聞いたり質問したりしているのを見つけた。 47 聞いた人々は皆、イエスの理解力と答えに驚嘆した。

48 両親は彼を見て驚きました。母は彼に言いました。「息子よ、なぜ私たちにこんなことをしたのですか。あなたのお父さんと私はあなたを心配して捜していたのです。」

49イエスは言われた。 「なぜわたしを捜したのですか。わたしが父の利益に心を向けていなければならぬことを知らなかつたのですか。」

50 しかし、彼らはイエスの言っていることを理解できなかつた。 51 そこで、イエスは彼らと一緒にナザレへ下って行き、いつも彼らに従順であった。しかし、彼の母はこれらのことすべて心に留めていた。 52 そして、イエスはますます知恵が増し、背丈も伸び、神と人から愛されていった。

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ =^{MT}、マーク =^M、ルーク =^L、ジョン =^J、使徒行伝 =^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書の書を識別します。さらに、**赤い斜体はイエスの言葉を示します。**

コンテキストダイジェスト

位置

エジプトとナザレ

THE DAILY JESUS NEWS

An ATJ Ministries Publication by John Wright

時間	の誕生から約3年後
の生涯の段階	第二段階：宣教の準備の30年間
第4章	イエスの幼少期と成長
セクション #023	イエスはエルサレムの神殿で父と交わる

の30年間の準備期間におけるたった一つの出来事を使って、その期間全体におけるイエスの成長と成熟を表わしています。それは、イエスが成長し、救世主としての宣教に備える期間について、私たちが知っておくべき最も重要な事柄を要約しています。

12歳のとき、イエスは律法の下では大人とみなされました。今日では12歳は大人とは程遠い子供とみなされますが、1世紀には若者とみなされていました。12歳は結婚適齢期であり、そのほとんどは14歳か15歳までに結婚していました。そのため、ルカはイエスの成長期の場面を取り上げ、イエスの若さと大人としての心構えの両方を私たちに示しました。

イエスは生涯このエルサレムへの旅を待ち望んでいました。イエスはついに割礼を受けた成人男性専用の神殿の内庭に入ることができました。イエスは、父なる神の御言葉を愛し、それを最もよく知っている人々と交わり、イエスがおられる場所に身を寄せることができて、大喜びでした。

犠牲の祭壇と洗い場は神殿の内庭にありました。イエスにとって、この過越祭の期間中に、生涯で初めて祭壇に捧げられた過越の子羊と他の多くの犠牲を見ることは衝撃的な体験だったに違いありません。それらは、イエスが21年後に神の子羊として死ぬことを力強く物語っていました。そのため、この期間に父なる神の関心事に集中していたことは、見る者にとってさらに注目に値し、感動的なものでした。

国の指導的な聖書教師や学者たちは、イエスの御言葉と父なる神に関する知識に衝撃を受けました。聖書本文は、イエスが彼らの質問に答えただけでなく、自らもソクラテス式」で彼らに教えるための質問を投げかけていたことを明確にしています。質問による教え方は1世紀に確立された手法であり、イエスが神殿で行っていたのはまさにそれでした。イエスの話を聞いたすべての人人がイエスの理解力に驚いたのも不思議ではありません。イエスは議論を先導しながらも、御言葉の交わりを大いに楽しんでいたのです。

イエスが常に父と聖霊と大切にしていた心、精神、魂の瞬間的な交わりは、神殿で語られ、行われたすべてのことの神中心性に浸るにつれて、イエスにとって新たな力と満足感を帯びてきました。イエスは何も見逃したくありませんでした。「父の家のために熱心に尽くした」（詩篇69:9）これは後に彼がこの同じ神殿を最初に清めた時に言われた言葉である（ヨハネ2:13-17）。

12歳のイエスの心と精神には、父の存在に対する意識、神の言葉に対する愛、この世での父の関心に対する熱烈な関心が何よりも重要であったことがわかります。これはイエスにとって当然のことだったので、地上の両親は自分がどこにいて何をしているかを正確に知っているだろうとイエスは考えていました。神殿にいたときのイエス
。の心には、不従順や反抗心はありませんでした

イエスを3日間捜したが見つからなかつたため、両親は神殿に行って祈り、犠牲を捧げ、イエスを見つけるための神の助けが得られることを願つたのでしょう。マリアとヨセフが、イスラエルの著名な聖書学者たちの活発な交わりの中心にイエスがいることに驚いたのと同じくらい、イエスはヨセフとマリアが天の父の利益に対する自分の情熱をそれほど知らないことにも同じように驚きました。

「なぜ私を探していたのですか？」わたしは父の利益に集中しなくてはならないことを知らなかつたのですか？」

これらは聖書に記されているイエスの地上での最初の言葉です。これらはイエスの人生の焦点、すなわち父との関係と永遠の子としてのアイデンティティを定義しています。イエスはこの発言で必要性を示すギリシャ語の動詞を使いました。「私は…でなければなりません」。イエスが父の利益に焦点を当てたのは、宗教的規則や文化的期待のためではなく、心、精神、魂、力のすべてで父を愛していたため必要でした。イエスは完全に「父中心」でした。彼らが彼を神殿で見つけることは「考えるまでもなかつた」はずです。彼が他にどこにいたいと思うでしょうか？

詩篇作者は昔こう書いています。「あなたの庭での一日は、他の場所での千日よりも良いのです。」詩篇84.10A（詩篇84全体を参照）

この場面の終わりに、イエスがあらゆる面で継続的に成長したという別の記述を加えました。これは、イエスがその後の18年間の生涯で完全な成熟へと進んでいく様子を描写したものです。

「そしてイエスは知恵と背丈がますます増し、神と人から好意を寄せられていった。」（2.52）

次にイエスに会うのは、イエスの生涯の宣教の時期であり、父の存在に対する意識が高まり、御言葉への愛が増し、父の関心に対する情熱的な献身がイエスの中にあふれているのがわかります。イエスは人生のどの面でも成長を止めませんでした。この点でイエスは私たちの模範です。私たちもそうすべきではありません。

応用：

イエスが父を中心としていたように、私たちも全身全霊でキリストを中心とすべきです。悲しいことに、私たちはみな簡単に気を散らされてしまいます。パウロはフィリピ人への手紙の中でこう書いています。

「すべての人は自分の利益を求め、イエス・キリストの利益を求めるないからです。」(3.21)

あなたの心と精神を支配しているのは誰の利益ですか？

イエスの関心はあなた自身の願望をどの程度支配していますか？

イエスの例は、あなた自身の人生の優先順位について何を教えてくれますか？